

旭川市がん検診における胃内視鏡検査導入について

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針(以下「国指針」)において、対策型胃がん検診の内容がH28に改正された。本市の胃がん検診は現在も国指針中の経過措置項目(下表※)を準用しているが、中核市の約9割がすでに胃内視鏡検査を導入していること、胃内視鏡検査への市民ニーズに対応すること等を考慮し、令和7年度より、胃内視鏡検査の導入を前提とし、「胃がん検診に係る懇談会」で本市の胃がん検診における今後の体制について意見交換を行っている。(8月現在2回開催)

受診対象者・受診間隔・検査手法の現状と変更(案)について

令和8年8月より、国の指針に準拠し下記変更(案)のとおりとする。

	現状	国指針	変更(案)
受診対象者	40歳以上	50歳以上※	50歳以上
受診間隔	年1回	2年に1回※	2年に1回
検査手法	胃部X線検査	・胃内視鏡検査 ・胃部X線検査 のどちらかを選択	・胃内視鏡検査 ・胃部X線検査 のどちらかを選択

※国指針では当分の間、胃部X線検査は40歳以上年1回実施可となっている(経過措置)

本市案に至った経緯

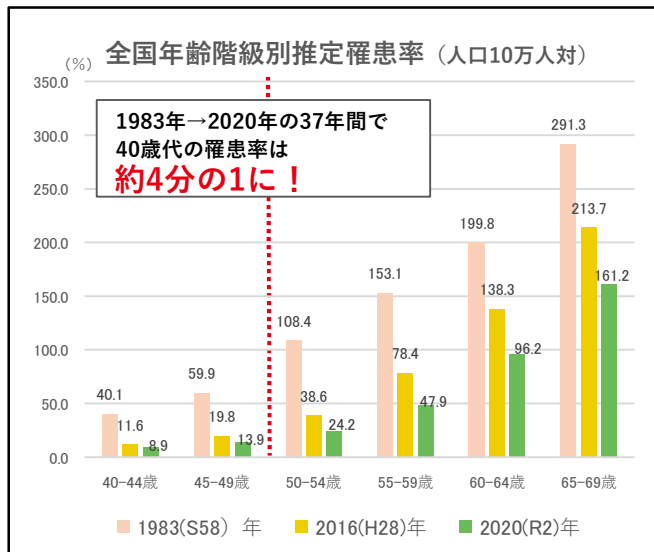
対象年齢 現状40歳→50歳へ変更

1970年代以降胃がんの罹患率、死亡率は減少傾向

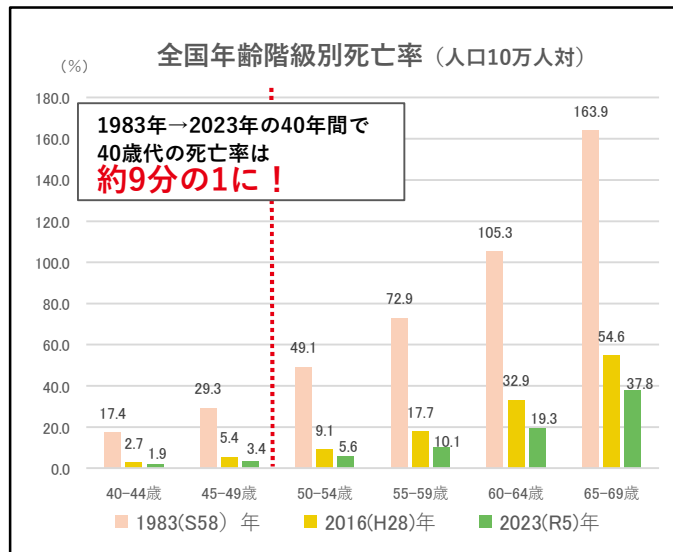
- ・40歳代の罹患率は約2分の1に、死亡率は5分の1に減少(S58→罹患率H23,死亡率H25データ)
- ・ピロリ菌の40歳代の感染率は1990年代約60%→2010年代20%程度に

「がん検診のあり方に関する検討会」中間報告書

【参考】全国状況



国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCJ))



国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

旭川市も全国と同様の傾向となっており、40歳代の胃がんが原因での死亡者は5年間(R1~R5)で6名(胃がん死亡者の0.9%)となっている。また、市の胃がん検診で胃がんと診断された40歳代の方はH28~R5まで0人。

(裏面に続く)

■ 受診間隔 1年に1回 → 2年に1回へ変更

有意性

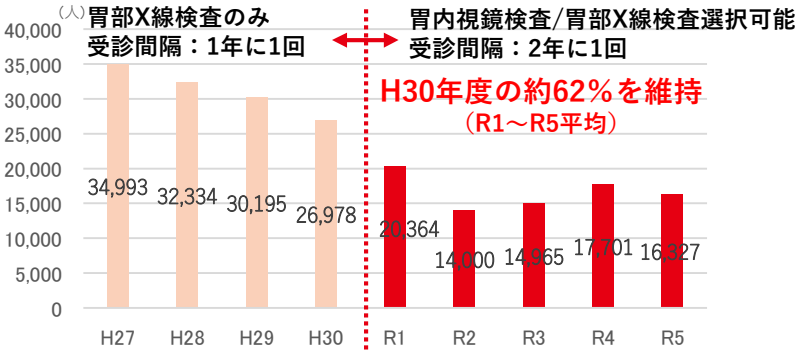
1～3年以内に胃がん検診を受診していた場合、死亡率が胃部X線検査で約60%、胃内視鏡検査で約40～70%有意に減少したと言う研究報告あり

受診率への影響

胃がん検診の検診間隔は平成19年の検討段階で2年に1回の実施で差し支えないとされていたが、当時は受診率低下が懸念され年1回の実施となった。その後、乳がん・子宮がん検診を2年に1回の実施に変更した際に同様の懸念はあったものの受診率の低下は見られず、むしろ上昇傾向にあるため、胃がん検診でも同様に受診率を維持できる可能性が高い。

「がん検診のあり方に関する検討会」中間報告書

【参考】札幌市胃がん検診受診者数の推移（50歳以上）



●札幌市の動向●
H31年1月から胃内視鏡検査を開始
同時に胃がん対象年齢を50歳に検診間隔を2年に1回に変更
40歳にリスク検査を実施

対象者は半分(50%)になったが
受診者は半分(50%)になっていない！

(札幌市衛生年報データ)

中核市及び近隣市町村の胃内視鏡検診実施状況について

○中核市のがん検診での内視鏡検査を実施している市は54市（全中核市の約9割）

胃内視鏡検査						
実施			実施回数			未実施
40歳～	50歳～	その他	年1回	2年に1回	その他	
10市	41市	3市	12市	39市	3市	8市
計 54市						

(R7.4 ホームページ調べ)

○近隣町村の胃内視鏡検査実施状況

鷹栖町	東神楽町	当麻町	比布町	愛別町	上川町	東川町	美瑛町
○	○	○	○	×	○	×	○

胃がん検診見直しスケジュール(案)

